



棟方志功と柳宗悦

2018年1月11日(木) - 3月25日(日)

□心偈頌 「今日モアリ オホケナクモ」 詞・柳宗悦／板・棟方志功 1957年 20.5×14.5cm 表装案・柳宗悦
□〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 TEL03-3467-4527 □京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

日本民藝館

国際的に高い評価を受けている版画家・棟方志功（1903-1975）は、青森県青森市に生まれました。画家を目指して上京した棟方は、やがて版画を生涯の仕事と定めます。当館創設者の柳宗悦（1889-1961）と棟方の出会いは、1936年4月の国画会会場でした。柳は棟方の「大和し美し」の買い上げを即決、以来作品の指導監修にあたります。半年後、日本民藝館の開館時には新作「華嚴譜」が大広間の壁一面を飾ることになりました。棟方は柳を生涯の師として仰ぎ、作品が仕上がるたびに持参して意見を求め、彫り直しを命じられても肅々と応えました。一方柳は棟方の作品を活かすべく、表具の考案に熱心に取り組みました。

こうしたやり取りは二人の間に交わされた書簡にも残されており、深い信頼で結ばれた師弟関係を垣間見ることができます。柳は棟方の仕事を「何か自分以上の力が背後にあって、それが仕事をさせているのを感じているのです」（「棟方と私」1958年）と評しました。これは、美しい工芸品が生まれる道は仏教の「他力道」に基づく、と説いた柳による最上の讃美であると言えます。本展では、出会いから柳が没するまでの25年間、柳の眼に叶った棟方の代表的作品（その多くが柳の装案による師弟の協同作品でもあります）を展観、数十年ぶりの出品となる「海山の柵」「般若心経経文板画柵」、またほぼ初公開となる両人の書簡から、その関係性や思索の相違などを探りつつ、棟方作品の魅力を紹介します。

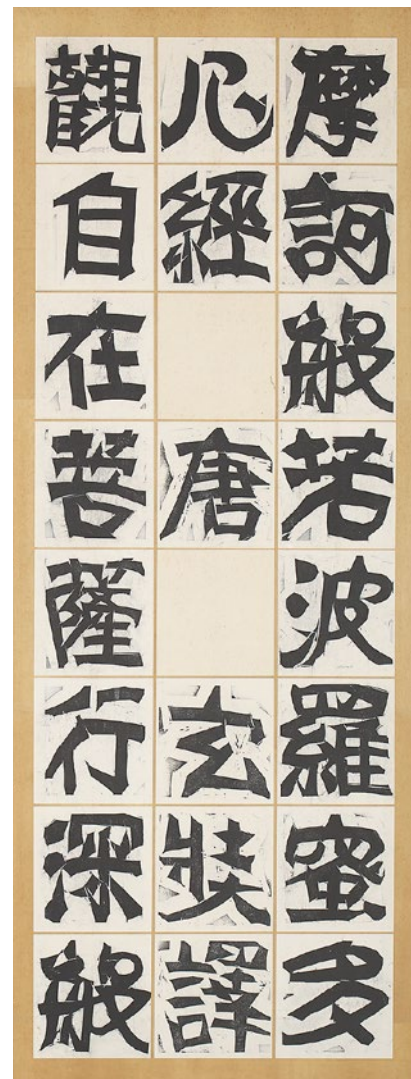
※会期中、一部展示替えがあります
（前期：1/11～2/12、後期：2/14～3/25）

〔ギャラリートーク〕

日 時：前期 1/19(金)、後期 2/16(金)
17:30-18:30 (19:00 閉館)

参加費：無料（入館料のみ）※申し込みは不要です
講 師：石井頼子（棟方志功研究・学芸員）

1. 水谷頌「布施の柵」 1959年 41.0×31.0cm
2. 般若心経経文板画柵（六曲一双屏風のうち部分）
1960年 ※前期展示
3. 倭画「曇雨御鯉魚」 1939年 32.0×58.0cm
4. 華嚴譜「薬師如来の柵（改刻）」 1936年 30.0×39.0cm
5. 追開心経の柵「自在」 1957年
47.0×47.0cm ※前期展示
6. 観音経曼荼羅「阿修羅の柵」 1938年 41.5×50.5cm



記念対談 棟方志功と柳宗悦・なぜ民藝館に棟方が
〔講師〕松井健（東京大学名誉教授） × 石井頼子（棟方志功研究・学芸員）
3月3日(土) 18:00-19:30 〔料金〕300円（入館料別、要予約）

□10:00-17:00（入館は16:30まで） □月曜休館（祝日の場合は開館し、翌日休館） □一般
1,100円 大高生600円 中小生200円 □西館公開日（旧柳宗悦邸） 会期中の第2水曜、第
2土曜、第3水曜、第3土曜（開館時間10:00-16:30、入館は16:00まで） □〒153-0041東京都
目黒区駒場4-3-33 □Tel.03-3467-4527 □京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

<http://www.mingeikan.or.jp/>

日本民藝館

次回展・柚木沙弥郎の染色 もようと色彩 4月3日(火)～6月24日(日)

